

## MRI 造影検査に関する説明

私は、\_\_\_\_\_様に対して、下記検査の必要性、危険性、副作用および合併症などについて説明いたしました。

予定検査 : \_\_\_\_\_

予定日 : \_\_\_\_\_

◆**造影検査とは**：MRI検査に際し、診断をより明確にする目的で、“造影剤”という薬剤の注射を行って撮影する検査のことをいいます。

◆**造影検査にあたり**：造影剤を使用することにより、病気の有無や性質、広がりなどをより正確に診断することができます。造影剤は広く使用されている安全な薬ですが、まれに副作用がおこることがあります。副作用の種類として以下のようなものが挙げられます。

- 1) 軽い副作用：吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹などで、基本的に治療を要しません。このような副作用の起こる確率は、約100人につき1人(1%)以下です。
- 2) 重い副作用：呼吸困難、意識障害、顔面蒼白、血圧低下、咽・喉頭浮腫、痙攣、腎性全身性繊維症などです。このような副作用は治療が必要で、後遺症がのこる可能性があります。そのため、入院や手術が必要なこともあります。このような副作用の起こる確率は、1000～10000人につき1人(0.01～0.1%)です。また、極めてまれに重篤なショックにより死亡する場合がありますが、その頻度は約100万人に1人とされています。

\*その他に起こり得ること

- 1) 造影剤を注射する時に体が冷たくなることがありますが、正常な反応であり心配はありません。
- 2) 勢いよく注入するために、血管外に造影剤がもれることがあります。この場合には、注射した部位が腫れて痛みを伴うこともありますが、基本的には時間がたてば吸収されますので心配ありません。もれた量が多い場合には、処置が必要となることもあります。非常にまれです。検査中は担当技師・看護師が立ち会っていますので、もし変だと感じたら遠慮なく、すぐにおっしゃって下さい。

◆**造影検査が終わって**：まれに、検査が終わった後30分、あるいは1時間後から2～3日後(遅発性)に、注射した腕の痛みや皮膚の発赤・かゆみ、吐き気、嘔吐、動悸などの症状がでることがあります。何か異常を感じたら、検査を依頼した科、あるいは放射線科までご連絡下さい。

\*造影剤は24時間くらいで、ほぼ全量が尿の中に自然に排泄されます。水分を多くとると尿量が増え、排泄が早まり副作用の予防にもなります。検査後は(水分の制限をされていない限り)十分に水分をとるように心がけて下さい。

\*検査をできるだけ安全に行うため、問診票に必ずご記入ください。

説明医師

〒783-8509 高知県南国市明見字中野526-1

J A高知病院 TEL : 088-863-2181